

8月から診療所で勤務しています！

8月から11月までの4か月間、朝日診療所で勤務をしていただく会津中央病院看護師の長嶺翔子さんです。もう1か月診療所で勤務されているので、長嶺さんを知っている方も多いかと思います。

長嶺さんは、会津中央病院では救命救急センターで勤務しているため、普段の勤務ではなかなかできない患者さんと会話をする事で、コミュニケーションスキルを身につけたいとの事ですので、長嶺さんを見かけたらぜひ気軽に話しかけてみてください。

皆さん、どうぞよろしくお祈りします。



広報たのみ診療所

朝日診療所
医師 山内健士朗



「たかが虫刺され？」

みなさんこんにちは。4月から只見に来た朝日診療所の山内健士朗です。出身は東京都、帝京大学で、3年前から福島市で勤務しておりました。夏はバイクでツーリング、冬はスキーを趣味としております。専攻は若山・森医師と同じ家庭医です。まだまだ至らないところもありますが、只見のみなさんの健康づくりに協力できるよう精進していきます。

さて、この自然首都只見で生活している我々は虫に刺されることは日常茶飯事です、アナフィラキシーショックという言葉は聞いたことはあるでしょうか？

私たちの体は、ウイルスや細菌などの異物である「抗原」が入ってくると、「抗体」をつくり、「免疫」によりこれら外敵をやっつけようとします。細菌、ウイルスなどと闘うときは非常にありがたいんですが、時々、食べ物や花粉など無害なものにも過剰に反応し、自分をも攻撃してしまう場合があります。これを「アレルギー」と言います。基本的にどんな物質にもアレルギーはありえます。

抗体は一度作られると、同じ異物が入ってきたときに、より速やかに、より強力に働きます。命に

関わる重症なアレルギー反応をアナフィラキシーといいます。症状としては、気分不快、めまい、全身の蕁麻疹、呼吸困難、意識障害などです。蜂刺されは代表的な原因で、全国で年間20名ほどが蜂刺されによるアナフィラキシーショックで亡くなっています。

蜂に刺されたら、まずはその場を離れ、傷口を洗浄、冷却し、安静にしてください。早急な受診を要する場合は、①2回目以降の蜂刺され、②なんとなく気分が悪い、③刺されていないところにも蕁麻疹が出た、④症状が30分以内に出た、などです。

意識を失ってからでは遅いので、林業などで山や森での作業が多い方は、アナフィラキシーの特効薬であるエピネフリン自己注射器(商品名: エピペン)を携帯しておくことをお勧めします。当診療所でもお渡しすることができます。

アナフィラキシーの原因は蜂だけではありません。「いつものことだ」「これしきのこと」では済ませずに、速やかな受診をお願いします。まだまだ暑いですが、ともに残暑を乗り切りましょう！